

朝鮮時報

1987年6月1日(月曜日) (4)

「日韓海底トンネル」を糾弾

朝鮮総聯
中央 朴在魯副議長が談話

朝鮮総聯中央の朴在魯副議長は五月二十七日、日本と南朝鮮の反動勢力が「日韓海底トンネル」構想を推し進めていることと関連して、これを糾弾する、つぎのような談話を発表した。

すでに明らかにされたように日本反動と南朝鮮がいらい集團は共謀結託し、「日韓海底トンネル計画」を推し進める策動を強行している。

昨年十月一日に佐賀県鍋田町で起工式をした後、外部との關係を遮断し工事を行なった。

「日韓海底トンネル」は九州西北端にある佐賀県唐津から壱岐、対馬、巨濟島などの島々を

経て釜山に至る二百三十五キロ間に建設され、総工費は三兆円になるという。

このトンネルは表面上、一九八一年十一月、「世界基督教統一神靈協会」(統一協会)の教祖・文鮮明が唱えた「国際ハイウェイ建設構想」にもとづき着手されたものだが、事実はおつて日本帝国主義者らが唱えた「大陸横断鉄道建設」という侵略的な計画をそのままくり返したものにすぎない。

われわれは、日本反動支配層と南朝鮮の売国奴らのこのような犯罪的策動を絶対に許すことができない。この策動に強く抗

議糾弾する。

侵略と売国の産物である「日韓海底トンネル建設計画」は、全斗煥一派と日本帝国主義者間の政治、経済、軍事的結託がどの段階にきているかを端的に示している。

このトンネルが建設されれば、南朝鮮の軍事基地と日本にある米軍、および自衛隊基地が空と海だけでなく「海底の高速鉄道、道路」で直結される。

米・日・南朝鮮の三角軍事同盟づくりが最終段階に入っていることに、日本反動と南朝鮮がいらい集團が共謀結託し、「日韓海底トンネル建設」をく

り広げているのは決して偶然なことではない。

これは、南朝鮮をアメリカ帝国主義と日本帝国主義者の二重の植民地軍事基地につくり、朝鮮を永久分裂させようという陰謀策動の一環である。

これは、朝・日両国人民の意思と利益に全的にそむく犯罪的策動である。

われわれは、アメリカ帝国主義の背後操縦のもとに強行されている犯罪的な「日韓海底トンネル」騒動をただちに中止することを強く要求する。

われわれは、各界各層の善良な日本人民とアジアの平和愛好人民と固く団結し、アジアの盟主としての昔の夢を實現しようという日本帝国主義者の野望と、南朝鮮がいらい集團の売国的な策動を破たんさせるためにたたかっていくであらう。

(関連記事4面)